

# 史遊会通信

No. 212  
平成 24 年 9 月 10 日 行  
事務局 (03) 3712-0651 下山田方

## 例会のお知らせ

### ◎ 9月例会

日時 平成 24 年 9 月 26 日 (水)  
午後 6 時～8 時

会場 目黒区民センター 7 階  
社会教育館 第 2 研修室

講演 佐藤健一氏

テーマ 『和算家 磯村吉徳』

自由執筆 太田精一・森下征二の  
諸氏

締切 9 月 30 日 嶽守

会場 目黒区民センター 7 階  
社会教育館 第 2 研修室

◎ 10月例会

日時 平成 24 年 10 月 24 日 (水)  
午後 6 時～8 時

会場 目黒区民センター 7 階  
社会教育館 第 2 研修室

講演 瀧澤中氏

テーマ 未定

自由執筆 村上邦治・鯨游海の諸氏

締切 10 月 31 日 嶽守

**建築の歴史**  
日本の建築の歴史は伝統的に設計と施工を兼ねる大工棟梁がいた。

アーキテクトの概念は明治時代以降に西洋の建築学が入ってきて、一八八六年に造家学会を設立し、一八九七年に建築学会に改称され「建築」と称することによって、芸術的な要素が強調された。

第二次世界大戦後の一九五〇年には建築士法が設立され、国家資格として建築士制度が誕生、身分が確立されていった。

大手ゼネコンも明治の後半から学士を採用し、設計施工の体制を整えていった。  
現在の建築基準法の前身である市街地建築

物法（一九一九年公布）は、建築物の高さを百尺（三十一m）以下に制限、百尺を超える最初の建築物が霞ヶ関ビルである。

### 建築構造の歴史

関東大震災後（大正十二年）において、日本建築構造を方向づける「柔剛論争」が起き、昭和十年頃まで続いた。

つまり、現在の超高層や免震構造のように、建物の固有周期を延ばすのを良しとする「柔構造論」と建物の強度・剛性を高くして地震力に抵抗させるのを良しとする「剛構造論」との論争である。

結局、百尺以下の剛構造のビルが関東大震災において被害が少なかった事から、日本

の建築は基本的に震が関ビルが誕生するまで  
は剛構造となつていった。

構造基準は、一九四六年に最初の基準が出来、その後地震の被害に遭うたびに、基準を補う形で現在の基準に至つてゐる。

大きな基準の改正は新潟地震（昭和三十九年）の液状化、十勝沖地震（昭和四十三年）のせん断破壊などの被害を受けて、それぞれ指針や基準が改正された。特に大きく改正されたのは、宮城県沖地震（昭和五十三年）のピロティ、プロック塀、機械基礎等の被害を受けて、新耐震設計法（現在の基準）へと改正された。

#### 耐震設計の考え方

建築基準法施工令では耐震設計のための地震力の大きさとして二段階を考えている。

一つは中地震動（震度五強程度）に対して、建築の機能を保持し、生命はもとより財産も守る。専門的な言葉でいうと、建物が弾性範囲にあること。

もう一つは大地震動（震度六強～七）に対し、建物の崩壊から人命の保護を図る。専門的な言葉でいうと、建物が塑性範囲に入つても脆性破壊をしないということである。

#### 耐震性能のグレード

法の規定は最低限の基準を示したもので、それ以上の耐震性能にすることを制限するものではない。被害を小さく、仕上げ材の損傷も少なくしたければ性能の高い耐震構造にしたり、制振構造や免震構造等を採用する必要があるが、性能が高いと建築費は高くなる。

公共建築物は基準法の安全率（最低限）を一・〇とすると、学校等の避難場所となる施設では一・二五倍、防災拠点となるような施設では一・五倍と安全率を高く設定し、人命の確保に加えて機能確保が図られている。

#### 震度

気象庁の震度階は、以前は各地の気象観測所で人の体感や周囲の被害状況を元に決められていた。

この時の規定では例えば、最大の震度七では「家屋の倒壊は三十%以上におよび、山崩れ、地割れ、断層などを生じる」というもので被害状況を調査した後に発表されていた。一九九六年（平成八年）に震度五が五弱、五強、震度六が六弱、六強に分けられるとともに、震度七も地震計の加速度から計測震度により決められるようになつた。

#### 意匠・構造・設備設計者の役割

設計の専門家を集めてチームを作り、意匠設計者が統括的な立場になつて、各設計者同士の連携を図る。

構造設計者は建物の安全・安心を得るために目標性能を設定し、経済性も考慮して構造体を設計する。人体でいうと骨や筋肉に相当する部分の設計である。

設備設計は建物の設備（空調・電気・給排水）の仕様・配置や配管・配線等を設計する。人体でいうと内臓・血管・神経等の部分の設計である。

#### 構造設計と工事監理

設計には基本設計と実施設計がある。

- 一、基本設計
  - ・施工への全体計画や要求事項のヒヤリング
  - ・耐震性能グレードの決定
  - ・現地調査の実施、地盤調査の提案
  - ・構造種別（S造、RC造）と基礎形式の決定
  - ・以上の案がコスト、工期、法令に適合するか確認して、基本設計が終了となる。
- 二、実施設計
  - ・構造部材の仕様・配置の決定
  - ・構造計算書と構造設計図の作成
  - ・施工者との見積調整及び工事費の確定
  - ・確認申請図書の提出と審査の対応

確認申請が終り「確認済証」が発行され、

実施設計が終了となる。

- 三、工事監理
- ・設計者の意図伝達、各種施工図のチェック
- ・品質確保の各種検査
- ・行政や確認申請審査機関の中間検査や完了検査の立会

#### 建築物の区分

第一号、高さが六十mを超える建築物（超高層建築物という）・・確認申請の他に、大臣認定が必要

第二号、高さが六十m以下のうち大規模な建築物・・確認検査機関の審査の他に構造計算適合性判定機関の審査が必要

第三号、高さが六十m以下のうち中規模な建築物・・確認検査機関の審査の他に構造計算適合性判定機関の審査は不要だが解析方法によつては必要になる

第四号、上記以外の建築物・・小規模で構造計算不要

#### 構造の種類及び特徴

一、木造・・軽く加工が容易、耐火対策が必要、広い空間が得にくい  
二、鉄筋コンクリート（RC造）・・火災に強い、揺れが少ない、工期が長い、ひ

び割れが生ずる、重い

三、鉄骨造（S造）・・空間が広くとれる、

工期が短い、耐火及び防錆対策が必要、

振動に注意

四、鉄骨鉄筋コンクリート（SRC造）・・RC造に同じ

#### 構造形式

##### 一、耐震構造

・建物の骨組みを強化し、地震の揺れに対して耐える構造

・地面の揺れに対し、建物内では二～四倍程度になる

##### 二、制振構造

・制振部材により地震エネルギーを吸収し揺れを低減、構造体の損傷を防止する

・地面の揺れに対して、建物内では一～三倍程度になる

#### 基礎の種類

一、浅い基礎・・直接基礎（直接地盤に支

持）と地盤改良（悪い地盤を改良）がある

二、深い基礎（杭基礎）・・既成杭、鋼管杭場所打ち杭などの杭を使用して支持

地盤調査により、支持地盤が地中のどこにあるか、敷地の揺れ液状化の心配はないかを調査し、杭基礎にするか直接基礎にするか建物規模や要求性能等をふまえて検討する。

液状化現象は地下水が高く、ゆるい砂質地盤が地震を受けた時に、その振動により地盤が液状化になる現象で、これにより杭の無い直接基礎の建物が傾き地中の軽い構造物が浮き上がりつたりする。液状化対策としては地盤改良や丈夫な杭基礎とする等の方法がある。

#### 東北地方・太平洋沖地震

今回の地震はM九・〇、最大震度七、海溝

型の地震であり、津波による被害が大きく、地震による建物被害はあまり報じられていないが、地盤の悪い地域や古い建物による被害はおきている。

一九七八年に宮城県沖地震M七・四を一度経験したことがあつて、一九八一年以後の新基準で設計した建物には被害は少なかつた。

#### 地盤と基礎構造

自由執筆

NHKスペシャル大英博③に関する所見

中山 番央

七月八日（日）NHKは第一チャンネルで午後九時から五十分間、掲題番組に「古代日本の謎、封印された巨大古墳！埋蔵品が示す墓室の姿」というサブタイトルをつけて放映した。

ところが番組の内容は、先行研究を無視した「一番煎じ」、且つ「説明不足」で、ロン・ドンオリンピック直前の時期を背景に企画したNHK教養番組としては、モラルに欠けたお粗末なものであったと愚考したので、ここに所見を発表し、史遊会関係諸氏の「判断を仰ぐ」と思つた次第である。

番組にかかる事項を先ず説明する。

明治五年日本政府は造幣局御雇い外国人として英國人鉱山技師ウイリアム・ゴーランド…ガウラン…とともに…（一八四二一一九一二）を採用する。冶金学のプロであった彼は明治十一年（一八七八）大阪造幣局試験方・溶解所長となり、銅の製錬のためイギリス式

反射炉を建設するが、この方法は陸軍の大坂製造所（のちの大坂砲兵工廠）にも伝えられ、その後の我国兵器製造に大きな役割を果たす」となる。ゴーランドの経歴の中に、日本陸軍省冶金関係特別顧問という項が入っているのもこれを裏書する。彼が帰国するのには明治二十一年であるが、日本政府は永年の功績に報いて勲三等に叙し旭日賞を贈つている。

その一方でゴーランドは、日本アルプスの命名者として登山界から高く評価されたのに加え、粗雑な巨石構造でできた埋葬石室を持

つドルメンに異常な興味を示し、十六年間の滞在中に四〇六基を入念に調査し、うち一四〇基については略図を描いたり測つたりし、更に当時では珍しかった写真撮影も実施しているのである。

彼は帰国後ブロートン製鋼会社に復帰し以後鉱業金属関係の研究所長や、王立人類學協会の会長を歴任、英國学士院会員、王立ロンドン鉱山学校名誉教授となる等、母国の学会で活躍する。著書には『The metallurgy of the non-ferrous metals (非鉄金属の冶金学)』一版～四版』、『The metals in antiquity (古代の金属)』、『Journal of Archaeology ガウラン...日本考古学の父』

the Royal Anthropological Institute (王立人類学協会) ハーナル) 一九二二年』等がある。その傍ら、一八九七年に「日本のドルメンと埋葬墳」、一八九九年に「日本のドルメンとその建築者たち」、一九〇七年に「日本初期天皇陵とドルメン」と日本列島の古墳に関する論考を相次いで発表する。

これらの発表を支えたのはゴーランドが帰国に際し持ち帰った膨大なゴーランドコレクションであり、現在大英博物館に収藏されているものである。

ゴーランドの業績につき熟知していたのは京都大学総長浜田青陵である。英・仏・伊に留学した彼は、ゴーランドを日本考古学の父と称えた。それに伴い一九二四年頃には京都大学の梅原末治が大英博物館のゴーランド資料見学を行い、一九六七年の秋に明治大学の大塚初重が須恵器全ての実測を行なつている。

ところのゴーランド『日本古墳文化論—ゴーランド考古論集』（昭和五十六年（一九八一）校註監修者・上田宏範・創元社）、及び『William Gowland The father of Japanese Archaeology ガウラン...日本考古学の父』

(二〇〇三年、責任編集ヴィクトー・ハリス、後藤和雄、執筆ヴィクトー・ハリス、上田宏範、大塚初重、後藤和雄、発行者、柴野次郎、大英博物館出版部、朝日新聞社)で詳らかである。

今回放映された芝山古墳の石室床面の状況

は、図面をも含めて大塚初重が全て詳細に説明しており、又放映最後に大発見として取り上げた見瀬丸山古墳玄室の位置について、後円部墳頂の直下に必ず埋葬施設があるのだが、この古墳ではそうではないと、墳形の再実測まで行い結論を出したのには唖然とした。

何故ならば、堅穴式石室と横穴式石室の相違とか、埋葬施設が前方部にあつた「島の山古墳」の例などにつき言及がなかつたからである。更にゴーランドは石室内部で水の為、玄室まで入る事が出来ず、『聖蹟図志』に記入された寸法を引用して石室入口から玄室奥壁迄の長さを約二十六mとし、彼が実見した日本最大の石室として、石棺二個の存在もあわせ紹介している。ところが一九九一年(平成三)年、閉塞中と思われていた石室が実は開口しており、石室内写真が偶然民間人によ

つて撮影されテレビ報道される事態が発生し、宮内庁書陵部は石室の実測を行い公表する。その結果横穴式石室の全長は約二十八mであり、後円部墳丘直下に玄室が存在しないことは、周知の事実となつていたからである。

明年一月には幸いにも小生に講演の機会があり、ソグド人はトルコ系の民族で、中央アジアの今ウズベキスタンを中心とする地方に住んだ。ウズベキスタンは、昔から東西交通の要衝にあつたことによつて、彼らは商業や交易にすぐれ、シルクロードのネットワークのない手として歴史に登場するようになつた。中継点の諸都市には必ず彼らの根拠地が形成されていて、古来、東西交易はこの民族のネットワークによつて支えられていたといつても過言ではない。

ソグド人はトルコ系の民族で、中央アジアの今ウズベキスタンを中心とする地方に住んだ。ウズベキスタンは、昔から東西交通の要衝にあつたことによつて、彼らは商業や交易にすぐれ、シルクロードのネットワークのない手として歴史に登場するようになつた。中継点の諸都市には必ず彼らの根拠地が形成されていて、古来、東西交易はこの民族のネットワークによつて支えられていたといつても過言ではない。

東西の交易は中継交易が主流であつたから中継都市にはかならずバザールがあつて、隊商たちが砂漠を越えて運んできた品物はここでさばかれ、ここで買われた品物は別の隊商たちによつてまたラクダの背にのせられて、さらに東西へとはこぼれていた。

ソグド人はそうした中継都市に住みつい

### 自由執筆 安祿山・史思明の乱

中込 勝則

1、安祿山や史思明とは一体何者か  
玄宗の時代、榮華を誇っていた唐朝を一転破滅せんまでに追い込み、又、杜甫の生涯にも多大な悪影響を及ぼしたのは足掛け八年に及んだ安史の乱であった。

乱の張本人の安祿山や史思明は「雜胡」だといわれるが、そもそも何者なのか。

彼らは、シルクロードを往来し東西の交易を行なつたソグド人の系譜につながる。

長安や洛陽には、ソグド人たちが西域からやつてきては、「紫髭緑眼の胡人」とか「紅毛緑眼の女」などと呼ばれて、大いに異国情緒をふりまいていた。

て根拠地をつくり、かれら独自のネットワークをもつていたからこそ、隊商はそこをたよりにして旅のつかれをやすめたり、品物もその土地にあかるい同国人に紹介してもらつて安心してさばくことができたのである。

永くその地に住んで代をかされば、その土地に同化していくことはいつの時代・どの民族でも見られることで、ソグド人も例外ではない。

中国に永く住み代を重ねるうちに姓名も中国的に漢字名を名乗るようになつたが、故郷をおなじくするものは自然とおなじ場所に住み同郷意識を強固に保つためか、同じ姓を名乗り、アイデンティーを共有することが多かつた。

即ち、サマルカンド出身者は「康」、ブハラは「安」、キッシュは「史」、タシケント

は「石」、といった具合に、その他「米」、「曾」「何」など九つの姓を名乗つたので、唐時代には彼らソグド人は総称して「九姓昭武」とよばれた。安祿山はブハラ、史思明はキッシュの出身のこうしたソグド人の血を引く者であった。安祿山の父はソグド人の康某、母は突厥人の阿史徳氏の出で雜胡とよばれる混血の胡人であった。母の出自である阿史徳氏族は突厥の有力な貴族であった。母は

巫女だったという。

ところが、祿山が幼いころ父が死んで、生活が苦しくなつた母は、突厥の將軍安延偃（あんえんえん）にひきとられ、祿山も母にしたがつた。その後、録山十四歳のとき、突厥部族間に抗争がおこり、安氏一族は唐の庇護をもとめて南に逃げた。

その途中で祿山は義父や母とはぐれてしまったが、柳城に至つた。このころから彼は、義父の姓であつた「安」を名乗るようになつた。柳城において、商人たちの使い走りをしているうちに、だんだんと名を知られるようになり、やがて、彼とおなじようにソグド人と突厥の混血の史宰干（しそつかん＝後の史思明）とともに独立して、互市瓦郎（＝交易仲介人）になつた。

一人はどちらも六ヶ国語をあやつり弁舌にたけていたから、商人間でも信用をえて、有力な商人となつた。祿山も史宰干もいつまでも商人に甘んじてはいる男ではなく、武将として名を上げたいと思つていた。

そのころ、瓜州刺史の張守珪（ちょうしゅけい）が、瓜州での吐蕃戦に業績を上げた力量を買われて、契丹防禦の最前線としての幽州節度使に抜擢されて柳城にやつてきた。

二人は商売で稼いだ金を投じて張守珪の配下になつた。そして小隊長から段々と軍功をあげて、やがて祿山は張守珪の副官・平盧討撃使左驍衛將軍に、史宰干は奚とのたたかいでその名将瓊高を捕える武功を立てたことによつて玄宗から史明の名を賜わつた。

## 2. 安祿山の玄宗・楊貴妃への取り入り

祿山は世智にたけ、人の心をつかむのがうまく、要路に贈り物をばらまいては歓心を買つた。それは長安の中央内部にも及ぶようになる。

やがて恩人の張守珪が死に、祿山は開元二十七年、平盧兵馬使となり、翌年には玄宗から營州都督に任命された。そのころから、玄宗に対する取入りをはじめとして、その寵姫楊貴妃にもとりいつた。

祿山は身長六尺余、すなわち二メートルを超え、体重は三百余斤というから約百八十キロ余、便々たる太鼓腹をもつた巨漢だつた。しかし体は敏捷で胡旋舞を得意とし、弁舌はさわやか、ひつきりなしに贈り物をおくつて歓心をかうことにつとめたから、ボケのきていた玄宗や楊貴妃はコロリとだまされてしまつたのである。こうして信頼をえた彼は、ついには平盧・范陽・河東の三節度使を兼ねる

までとなつた。その兵力は二十万。じつに唐全体の兵力の三分の一を握るにいたり、このころから彼の心の中には唐朝にたいする謀叛の気持ちが醸成されていったのである。

しかし、なんといつても最大の問題は、玄宗の祿山に対する信頼と偏愛であった。

謀叛のおそれがあることが耳に入れる者があつても、玄宗は笑つて取り合わなかつたし、進言した者があべこべに処罰された。

玄宗はすでに在位四十五年、年齢も七十歳を越え、政務を見るにすでに耐えられなくなつてゐるのである。開元の治の頃のさうたる名天子ぶりは、もはや望むべくもなかつた。そして、楊貴妃との愛欲におぼれていた。というよりも、歲でその愛欲すらまた

ならなくなつていたのである。

祿山は、楊貴妃の養子になることを玄宗にねがいでゆるされ、楊貴妃の子の資格で男子禁制の後宮におおっぴらに出入りし、あまつことか、玄宗に満たされない思いを抱いていた楊貴妃と男女の関係をむすんでいたとする。

### 3、安祿山の乱の勃発

安祿山が幽州（いまの北京あたり）において叛旗をひるがえしたのは、天宝十四載十一月九日のことであつた。安祿山は乱を起すにあたり、幽州から東北方面の反乱軍を率いて、——恩命を奉じて、逆賊楊國忠を討つ——を旗印に長安に攻め上つたとされるが、そのルートはソグド人の根拠地をたどつて彼らの支援を受けつつ進軍した。

玄宗は叛乱の知らせがとどいても半信半疑であつたという。玄宗にとつてみれば、あの信頼する祿山が自分に背いたことが信じられなかつたのである。しかし数日のうちにそれはうたがいもない事実だとわかつた。賊軍は、冬の枯葉をけちらすような勢いで西に進軍し、またたく間に鄭州を落し、十二月三日には副都洛陽を陥落させた。

幕史堂文輯  
⑯

## 祝出版

中込勝則 記

『杜甫を味わつてみませんか』  
(第二編 長安における交遊)  
安祿山の乱勃発)

事務局だより

※八月の幹事会で十一月の例会のテーマが決まりました。討論会形式で「私の邪馬台国」です。邪馬台国についてはそれぞれの思いがあることと存じますので、九州説、畿内説など忌憚のないご意見を発表してください。司会は中山さんにお願いしてありますので、どのような形式で進行するのか、後日発表されると思います。

日に国号を大燕とし、雄武皇帝を僭称した。天宝十五載（七五六）六月、長安の東の守りの潼関が陥落した。この知らせが長安にとどいたため、玄宗は都をすてて蜀をめざして蒙塵し、賊軍は長安を占領した。途中で楊貴妃ならびに楊國忠など一派は殺された。

天宝十五載（＝至徳元載 七五六）七月、

皇太子の卓（こう）が、帝位を襲つて甘肅省靈武において、肅宗として即位した。同時に改元されて至徳元載となつた。これを聞いた郭子儀は、兵五万を率いて靈武の行在所に駆けつけたので、これから官軍の勢いもだんだん盛んになつていった。

（つづく）

自由執筆

キリスト教禁制を利用した

諸藩の内情把握

鍋屋 次郎

井上筑後守政重は寛永九年（一六三二）、將軍家光から総目付（後の大目付）に任命され幕閣に登場した。政重のキリスト教との関係は寛永十五年（一六三八）一月三日、島原の乱の上使に任命されたことに始まる。島原に着陣した彼は、一揆勢の強韌で執拗な闘争に衝撃を受け一揆勢を大虐殺したことが、その後の彼のキリスト教禁制政策に大きな影響をもたらした。

政重のキリスト教禁制対策は、宣教師をことごとく死罪にすることにより、キリスト教熱を煽ることなく転宗させることに主眼を置いた。従来の血なまぐさい弾圧からの転向である。

政重が寛永二十年（一六四三）に高松藩で、また慶安三年（一六五〇）には岡山藩でのキリスト教露見事件に介入したことにより、各藩はキリスト教禁制施策において「自分仕置」を喪失させられていった。このように政重は個別藩のキリスト教禁制

問題について、幕府が介入してその処分権を掌握できる前例を作り上げた。

將軍家綱の時代、明暦二年（一六五七）九月二十五日、幕府内に「宗門改役」が設けられ、井上筑後守政重は職を病氣で辞する万治元年（一六五八）までこの職にとどまった。

幕府は後任に大目付北条安房守氏長と、作事奉行保田若狭守宗雪の二名を宗門改役に任命した。時は慶長十八年（一六一三）の家康によるキリスト教禁制から四十余年を経過し、寛永十五年（一六三八）の島原の乱からも二十年以上も経過しているにも関わらず、

明暦三年（一六五七）に肥前大村藩で、万治三年（一六六〇）から寛文元年（一六六一）には豊後と美濃・尾張と相次いでキリスト教露見が発生したことを見て、宗門改役組織はこれら諸藩に立ち入って行った。

この時の尾張藩での状況は、寛文元年（一六六一）三月旗本知行地である尾張藩隣接の

美濃国可児郡塙・帷子村で露見の報に接し、尾張藩は二十四名のキリスト教を召捕つた。幕府は目付森川小左衛門に美濃国のキリスト教査検を命じた。これにより尾張藩は同年五月にキリスト教奉行を設置し、目付海保弥兵衛、松平三太夫を任命、海保弥兵衛は幕命に

より江戸へ下向し、幕府宗門改役北条安房守から直接キリスト教穿鑿の方法を伝授された。その後尾張藩は領内三十八か所にキリスト教禁制の高札を立て、キリスト教改めのため五人組を組織させ、領内各寺院に新規に檀那になる者の吟味を通達した。その結果三年後の寛文四年（一六六四）十月にはキリスト教二百七人を召捕つている。

幕府は寛文四年（一六六四）十一月二十五日、諸藩に対してキリスト教の穿鑿、召捕りを一層励行するように命じ、各藩にキリスト教改めの役人設置を義務付け、幕府宗門改役の傘下に各藩の宗門改役人を置く組織を確立して全国諸藩を統括するようになった。

更に幕府は寛文七年（一六六七）には幕府内に「諸国巡檢使」（幕府から諸国に派遣する政情・民情視察使）制度を設け、巡檢使には諸国のキリスト教取締状況をよく観察するよう命じている。

この時期にはこのようにキリスト教禁制政策遂行の究極的な権限が「公儀」に属することとなつて、幕府の諸藩に対する権力が一層高まり、併せて「諸国巡檢使」による諸藩内情把握が可能となり、これから約二百年続いた幕府の基礎が確立されたと考える。